

抄読会 (分野打ち合わせ)

少子高齢化社会における小児医療の現状と課題

博士課程 1 年目 田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。合計特殊出生率（女性一人が人生で出産する人数）は 1.20 まで低下しており、政府は少子化対策を講じるものの、効果は得られていない状況である。しかし、これは日本だけの問題ではなく、国際的な問題であり、今後多くの国で人口は減少に転じると言われている。将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築することを研究テーマに据えた。

今回は、DPC（診療群分類包括評価）データベースを用いた小児急性期診療の調査結果について報告した。DPC データ調査研究班が収集するデータを研究利用して、約 1100 病院のデータから、15 歳未満の急性期診療の概観をした。疾患別から、実態記述を行い、NDB 研究を行う上での課題などを検討した。

今後は、研究費の獲得を進めつつ、DPC データの再検討（論文化）・NDB データ抽出の準備・将来の病床予測方法などを進めていく予定である。